

国立大学法人熊本大学  
くまもと水循環・減災研究教育センター  
合津マリンステーション  
教育関係共同利用拠点



写真左から、研究実習船ドルフィンスーパーチャレンジャー（ドルフィンSC）、研究実習棟、公用車、研究宿泊棟

〒861-6102 熊本県上天草市松島町合津 6061

Tel 0969-56-0277 Fax 0969-56-3740

E-mail: [staff-ams@kmm.kumamoto-u.ac.jp](mailto:staff-ams@kmm.kumamoto-u.ac.jp)

ホームページ： <https://cwmd.kumamoto-u.ac.jp/marine/>

## はじめに

合津マリステーションは、雲仙天草国立公園に含まれる景勝地・天草松島にある天草五号橋(松島橋)のたもとに位置しています。1954(昭和29)年に熊本大学理学部附属臨海実験所として発足し、沿岸域環境科学教育研究センターの設置に伴い、名称が変更されました。現在は、2017年4月に発足した、くまもと水循環・減災研究教育センターの所管となっています。

合津マリステーションには、当センター沿岸環境部門の生物資源循環系解析学分野のスタッフと、教育拠点形成事業で雇用された地質・古生物分野の教員が常駐し、それぞれ専門の調査・研究活動を行うとともに臨海実習などの教育活動も行っています。当施設の宿泊設備(宿泊室、調理室など)は、長期間の実習にも対応可能であるため、熊本大学の授業のほかに、大学公開実習(A-D)、九州内の他大学の実習、小中高生の授業や課外活動などにも利用されています。また、地域への教育普及活動として、上天草市と共同で、干潟観察会・ウミホタル観察会などの生物観察会を毎年5~6回実施しています。

当施設は、海棲動植物の飼育・生態観察が可能な実験水槽、講義や顕微鏡を用いた実習に活用できる実習室、研究実習船ドルフィンSC(定員30名)、公用車に加えて、長靴やハンマーなど各種の実習に利用可能な道具を備えています。



## 職員組織

教授 嶋永 元裕 Motohiro SHIMANAGA

教授 田中 源吾 Gengo TANAKA

准教授 山田 勝雅 Katsumasa YAMADA

准教授 吉川 晟弘 Akihiro YOSHIKAWA

特任教授 逸見 泰久 Yasuhisa HENMI

技術専門職員 島崎 英行 Hideyuki SHIMASAKI

臨時職員 前中 昭代 Akiyo MAENAKA

## 研究活動

### 嶋永 元裕 (メイオベントス生態学)

センチウヤソコミジンコなど、1 mm以下の微小底生動物(メイオベントス)は、人間にとっては目立たない生きものです。しかし彼らは水底1 m<sup>2</sup>当たり百万匹生息し、生産量で大型生物を上回るため、生態系においては重要な役割を果たしています。私は、沿岸域における彼らの生態と環境変化との関連性を研究しています。合津マリステーションでは、海洋生態学の実習を担当しています。

### 田中 源吾 (層位・古生物学)

微化石(介形虫)を用いた古環境の復元や、古地理の復元を研究しています。特に、九州地方のシルル紀~現在までの時代を対象としています。また、岩相や介形虫化石群の特徴から、過去の津波や高潮などの災害の規模について、定量的な復元もおこなっています。

### 山田 勝雅 (沿岸生態学)

干潟・藻場・海草場や河口などの人間にとってなじみ深い沿岸域に生息する生物種や生態系の研究を行っています。自然・環境から享受できる水産物などの恩恵と人間社会とのより良い共生関係に新しい視点をもたらすことを目指しています。

### 吉川 晟弘 (系統分類学・行動学)

潮間帯から深海にかけて生息している底生動物の系統分類学や共生生態学に関する研究を進めています。主にヤドカリとイソギンチャクの相互作用に着目をして、海産底生動物の相利共生がどのように進化し、維持されているのかを明らかにすることを目指しています。

### 逸見 泰久 (沿岸生物の個体群生態・行動生態・保全生態)

沿岸域の動植物の生態・行動、多様性保全などを研究しています。浅海・干潟・塩性湿地の生物に関する、多くの論文・著書があります。沿岸域の環境問題に関する国や地方自治体の委員会で委員長・委員を務め、多くの提言を行っています。

西

有明海

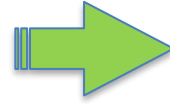


合津マリンステーション



東

八代海



日本最大の干潟と特異な固有の生物相を有する有明海と八代海  
二つの海が交わる天草松島に、合津マリンステーションはあります

合津マリンステーションは、西に有明海を、東に八代海を臨む上天草市松島町にあり、二つの海のどちらにもアクセスが容易です。有明海の湾口部に近い合津マリンステーションの西側は、カキなどの固着性生物が見られる岩礁・転石帯となっています。一方、東側の八代海湾奥部にはムツゴロウやヤマトオサガニなどが多数生息する軟泥質の干潟が広がっています。

有明海・八代海は、国内では特異な固有の生物相（ムツゴロウ、アズキカワザンショウ、ヤベガワモチなど）を有する海洋生物の多様性が非常に高い海域のため、臨海実習地として適しています。

また、施設周辺には、後期白亜紀～古第三紀の陸域～深海で堆積した地層が分布しており、そこに含まれる化石を観察し、採集することができます。いくつかの臨海実習では、合津マリンステーションから実習船ドルフィンSCに乗船して、前期白亜紀の恐竜化石産地である御所浦島に移動し、地層の観察や化石採集を行っています。さらに、施設周辺には、天草ジオパークのジオサイトが複数あり、地質系の実習に活用しています。

このように、合津マリンステーションでは、地域の特性を生かし、「地球と生物のダイナミックな歴史を学ぶ」をテーマとして研究・教育活動を行っています。



御輿来海岸（宇土半島）



満潮時



合津マリンステーション西側の岩礁地帯



広大な干潟（有明海）

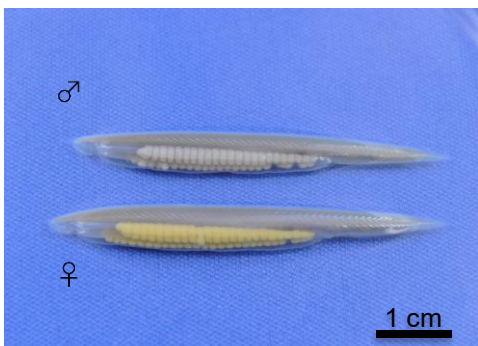


干潮時

日本一の干満差（写真：合津マリ）



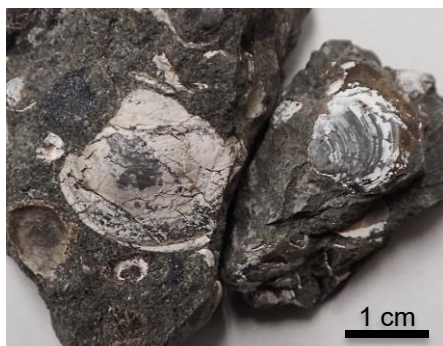
塩性湿地の植物（ハママツナ）



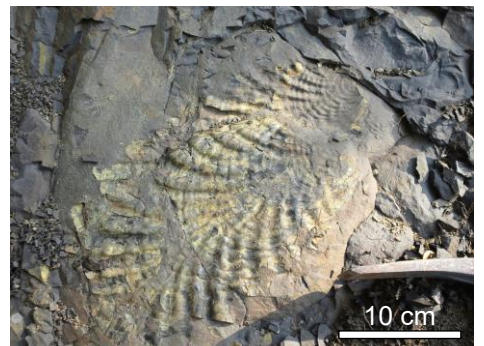
“生きた化石”ナメクジウオ（頭索動物）



有明海の固有種ヤベガワモチ（殻を持たない巻貝）



古第三紀の汽水成の地層に含まれるシジミ貝の化石



白亜紀の地層に含まれる海棲二枚貝の化石（イノセラムス）

# 施設紹介



合津マリンステーション周辺の航空写真  
バス停（前島）は写真の上方にある



浴室



学生用宿泊室

合津マリンステーションは、① 研究宿泊棟(3階建)、② 研究実習棟(2階建)、③ 研究飼育棟(平屋)の3つの建物からなります。

海洋調査や臨海実習では、④ 実習船「ドルフィンSC」(定員30人)、⑤ 調査船「しらぬひ」(定員6人)を利用できます。

※番号は、左写真に対応

## < 研究宿泊棟 >

**1階:** 男女別浴室(個別シャワー室5室・洗面所・洗濯機)、食堂(定員42人、IHコンロ4口、シンク3、大型冷蔵庫1台)、外来者用研究室などがあります。食堂は自由に使用できます。なお、食堂にある大型テレビは、講義や発表に使うことも可能です。

**2階:** 当施設に所属する教員や学生の研究室、測定室などがあります。ドラフトチャンバーやインキュベータなどが設置されています。

**3階:** 外来者用の宿泊室です。教員用(定員2人)2部屋と学生用(定員6人)7部屋があり、最大46人の宿泊が可能です。



玄関ロビー



1階標本展示スペース



1階実習室



2階実習室



安定同位体分析機器  
(Flash EA)



走査型電子顕微鏡

## < 研究実習棟 >

**1階:** 玄関ロビー、1階実習室、事務室、応接室、恒温室などがあります。玄関ロビーには、周辺の海域や地層から採集された動物や化石の標本、当施設の研究を紹介したパネルなどが展示してあります。実習室には、実験台と大小の飼育水槽があり、生物の飼育・観察が可能です。

**2階:** 2階実習室、図書室、実習用顕微鏡室、電子顕微鏡室があります。実習室には、スクリーンと移動可能な実験台、200冊を超える図鑑類などがあり、主に講義や微小生物の観察実習に使用しています。実習用顕微鏡教室には、生物顕微鏡45台と実体顕微鏡20台があり、電子顕微鏡室には走査型電子顕微鏡(SEM)と、安定同位体分析機器(Flash EA)があります。また、図書室には海生生物に関する多数の和文・英文の科学雑誌、カラーコピー機、実習用のノートパソコンなどがあります。

## 研究実習船の利用について

合津マリンステーションは、臨海実習や調査・研究活動に利用可能な2艘の実習船を保有しています。研究実習船「ドルフィンSC」は、2014年に進水した新造船で、海底の堆積物採集や離島への移動、沖合でのプランクトン採集などに活用しています。船体の前後に2つの側方スラスタを備えるため、海底の音波探査や海上からの地層の観察などにも対応できます。調査船「しらぬひ」は、岩礁地帯での瀬移りや試料採取など、ドルフィンSCが航行できない浅い海域での調査に有効です。



ドルフィンスーパーチャレンジャー（ドルフィンSC）

（9.7トン、巡航速度22ノット、定員30人）

多人数での調査・実習が可能である。航海中に採集した生物や海底の堆積物を後部デッキ上で観察できる。

これらの実習船は、実習室や宿泊室などと同様に、利用申請を受け付けています。これまでに、水族館で飼育・展示する海生生物の採集や自然史系の博物館からの採泥調査、教育・研究機関からの採水・採泥調査などに利用されました。

申請希望の方は、合津マリンステーションまで、電子メール等で直接ご連絡ください。ドルフィンSCは、夏季には各種の臨海実習で利用されているため、ご利用を検討される場合は、お早めにご相談ください。



しらぬひ

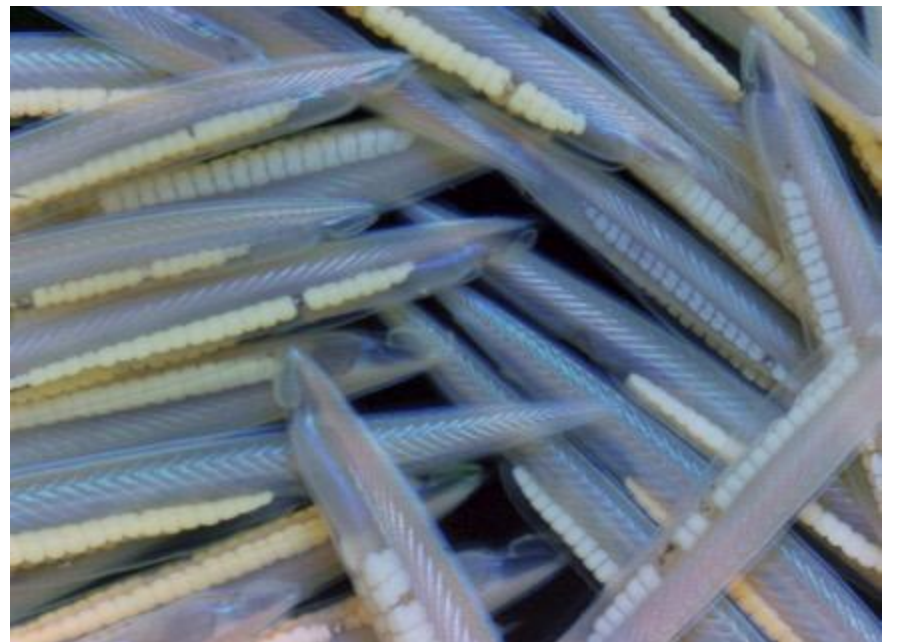
（1.5トン、巡航速度20ノット、定員6人）

小型で小回りが利くため、浅海域での試料採集などに利用可能である。

## 生物試料の提供について

合津マリンステーションでは、研究・教育目的に限り、生物試料の提供を行っています。常時提供が可能な生物は、ヒガシナメクジウオ *Branchiostoma japonicum* ですが、他の生物についても相談に応じます。生物試料の提供を希望する方は、直接、合津マリンステーションまで、電子メールで御連絡下さい。

**ヒガシナメクジウオ（頭索動物）**：脊椎動物の進化を探る上で重要な動物である。『生きた化石』とも言われる。繁殖期になると、オスは青白の精巣、メスは黄色の卵巣が体側に並ぶ。



## 化石と現生の海生生物を調査・研究することによって、白亜紀～現在の有明海・八代海へとつながる「地球と生物のダイナミックな歴史を学ぶ」

干潟で大きなハサミを懸命にふるハクセンシオマネキのオス。個性的な彼らが招こうとしているのは、“潮”ではなく、同種のメスです。

一見、生物がいないようにみえる干潟表面ですが、堆積物を掘り起こせば様々な形の貝類や甲殻類が姿を現します。また砂粒の隙間を拡大して見れば、クマムシなどの微小な生物が無数に生息し、マイクロな生態系を形成しています。

近くの露頭に目を向けてみてください。そこからは、生物の化石や活動の痕跡である這い跡や巣穴跡を見つけることができます。はるか昔の干潟においても、現在と同じような生態系が営まれてた証拠に触れる時、皆さんの知的好奇心や想像力は大いに刺激されることでしょう。

合津マリンステーションでは、小・中・高校生、大学生、大学院生を対象にした臨海実習や教員研修のほか、一般市民を対象とした干潟観察会などの教育普及活動を、様々なテーマ(生物多様性・環境保全・海洋学・地質学など)について行っています。

海の生きものたちの多様な生態・行動を普段とは異なる視点から観察し、彼らが生息する「場」に実際に接し、また、彼らが織りなす様々な行動の意味を解き明かすことで、私たちは、自然環境と生態系との関係性について科学的に理解することができます。合津マリンステーションは、野外や室内での観察・実験を行う場を提供することで、「自ら課題を発見し、解決法を探る」課題解決型の能動的な学修の手助けをしています。

### 実習紹介

#### 大学公開実習:

全国の大学生を対象に、毎年3・8・9月に各6泊7日の公開実習(A-D)を実施しています。国立大学の学生は、単位互換制度により2単位の取得が可能です(県立・私立大学などは、各大学で対応が異なります)。実習内容は、プランクトンやメイオベントスの観察と調査(実習A)や、天草での化石採集(実習B)、古墳の見学や、海の生き物の種多様性の把握(実習C)、底生動物の行動実験(実習D)などです。毎年、九州内外から多くの学生が参加しています。なお、地域の特性を生かした実習を行うために、合津マリンの教官だけでなく、他大学などから各専門の研究者を招いています。平成26年度からは、白亜紀～古第三紀の地層や古生物を扱った地質系実習(実習B・C)も実施しています(詳細は、合津マリンステーション ホームページなどに掲載しています)。

#### 他大学の实習:

合津マリンステーションでは、熊本大学以外にも、九州大学・熊本県立大学などの実習が行われています。海岸での生物採集、海洋観測、地質調査実習など、実習内容はバラエティに富んでいます。実習期間や時期も含め、それぞれの大学の実状に合わせて対応可能ですので、合津マリンの利用を希望される方は御相談下さい。

**熊本大学 大学公開実習A**  
九州・八代海の環境と植物プランクトン・微小生物群集の関係を科学する！  
**閉鎖海域の海洋環境生態学実習**

対象：学部 1～4年 実施期間：2025年8月22日～8月28日

実習内容：  
・八代海の海洋環境と植物プランクトン分布との関係性の調査・解析  
・高浦原付プランクトン/動物プランクトン採集と生物・電子顕微鏡観察  
・干潟堆積物中の微小底生生物(バクテリア・メイオベントス)の蛍光・電子顕微鏡観察  
・活性染色法によるバクテリア生理状態の観察  
・ウミホタルとミナミハンドウイルカの観察

問い合わせ先  
〒861-6102 熊本県上天草市松島町合津 6061 熊本大学・合津マリンステーション  
TEL: 0969-56-0277 / FAX: 0969-56-3740 e-mail: publict-ams@kmm.kumamoto-u.ac.jp  
詳しくは「公開実習ガイド」(各大学教務に郵送) またはホームページを御覧下さい。

**熊本大学 大学公開実習B** 古生物学・地層学！  
**地層を見て、化石を掘って、博物館で学んで…大昔の天草について学ぼう！**

対象：学部1～4年生  
実施期間：2025年8月29日～9月4日  
実習内容：白亜紀の浅海～深海で堆積した地層の観察・化石採集  
天草市立御所浦恐竜の島博物館の見学  
古第三紀の干潟～浅海層の観察・化石採集  
化石化のメカニズムについての講義  
実習船によるミナミハンドウイルカの観察

2024年リニューアル・オープン！  
天草市立御所浦恐竜の島博物館

実施場所：熊本大学・合津マリンステーション

問い合わせ先  
〒861-6102 熊本県上天草市松島町合津 6061  
熊本大学・合津マリンステーション  
TEL: 0969-56-0277 / FAX: 0969-56-3740  
e-mail: genzo@kmm.kumamoto-u.ac.jp  
詳しくは「公開実習ガイド」(各大学の事務にあり  
ます) または以下の合津マリンステーションのホ  
ームページを御覧下さい。  
https://cwm.kumamoto-u.ac.jp/marine/aizu\_marine\_station/

**熊本大学・大学公開実習C** [古生物学・考古学・海洋生態学]  
春の天草の島々で地層・化石・古墳・生物を広く学ぼう  
**文理融合型野外実習**

実習期間：令和8年2月27日～3月5日(申し込み締切：2月6日)  
実施場所：熊本大学・合津マリンステーション

実習内容(学部1～3年生対象)  
① 野外における地層の観察と化石採集(古生物学) 潮間帯の生物を採集・観察  
② 天草に分布する古墳群の観察(考古学)  
③ 現生の干潟での動物の観察(海洋生態学)  
④ 現生の潮間帯・潮下帯の動物の観察(海洋生態学)  
※ 無天候時には実習内容を変更する場合があります。

古墳の講義・古墳の現地見学 化石のクリーニング体験 海洋生物の共生を観察

地層の観察・化石採集 ウミホタルの採集・観察 実習船からのイルカの観察

快適な環境で皆様をお待ちしております！！

問い合わせ先 詳しくは「公開実習ガイド」(各大学教務に郵送) またはホームページを御覧下さい。  
〒861-6102 熊本県上天草市松島町合津 6061  
熊本大学・合津マリンステーション  
TEL: 0969-56-0277 / FAX: 0969-56-3740  
吉川風弘(よしかわ あきひろ)  
Email: akiyoshikawa@kumamoto-u.ac.jp

**熊本大学・大学公開実習D** [生物多様性学]  
**行動生態学 生物多様性 景観生態学 総合実習**

実施期間 2026年 3月19日～25日  
申し込み期間 1月5日～2月26日  
実施場所 熊本大学・合津マリンステーション  
対象 学部1～3年

実習内容  
・ヤドカリの員数交換実験  
・干潟・岩礁生物の帯状分布の分析  
(ドローンを活用して調査を行います)  
・実習船からのミナミハンドウイルカの観察

問い合わせ先  
〒861-6102 熊本県上天草市松島町合津6061  
熊本大学・合津マリンステーション  
TEL: 0969-56-0277 / FAX: 0969-56-3740  
山田勝雅(やまだかつまさ)  
E-mail: publict-ams@kmm.kumamoto-u.ac.jp  
詳しくは「公開実習ガイド」(各大学教務に郵送) またはホームページを御覧下さい。



**メイオベントスの観察:**砂浜などに生息するメイオベントスを採集し、観察する。写真は、合津マリンステーション 2階実習室での観察の様子。



**海岸生物採集:**潮間帯に生息する動植物(貝類、甲殻類、海草類など)を採集し、種同定や生態観察を行う。写真は、合津マリンステーション南側の干潟にて撮影。



**アマモ場の生物相調査:**藻場に生息している生物相を調査している。写真では、地引網を使って、藻場に生息している魚類などを採集している。



**地層観察:**地層中に含まれる化石や堆積構造を観察し、地層が形成された環境や化石が示す地質年代について学ぶ。写真では、御所浦島東側に見られる大規模露頭を船上から観察している。

## 熊本大学の実習

学部生を対象に臨海実習Ⅰ・Ⅱ および地質調査法Ⅱが、大学院の学生を対象に海洋生態学Ⅰ・Ⅱが開講されています。

## その他の実習

小・中・高校生や一般市民を対象に、様々な海棲生物を対象とした実習や観察会を開催しています。



白亜紀の地層からの化石採集  
(上天草市龍ヶ岳町梶島)



ミナミハンドウイルカの生態観察  
(有明海)



潮間帯での生物採集  
(合津マリンステーション南側)

# 交通案内

## 熊本空港・熊本駅から

熊本方面から来る場合は産交バスを利用するのが便利です。市内中心部の熊本桜町バスターミナルから30分か1時間おきに天草(本渡)行きの快速あまくさ号が出ています。「前島」で下車して下さい。所要時間は1時間35分程度です。あまくさ号はJR熊本駅前(2乗り場)をすべて経由します。JRを利用する人は熊本駅前で乗車して下さい。熊本駅前から1時間25分程度です。

熊本空港からはリムジンバスなどを利用して熊本駅に向かい、上記のバスに乗り換えてください。空路で来る場合には、熊本空港ではなく、福岡空港を利用の方が便利な場合が少なくありません。

(詳しくは、合津マリンステーションのホームページを御覧下さい。時刻表へのリンクページもあります。)

## 福岡空港から

福岡空港から約30分毎に桜町バスターミナル行きの高速バスがあり、1時間55分程度で到着します。地下鉄を利用すると空港から博多駅まで約6分、JR博多-熊本間は新幹線なら1時間足らずです。なお、鹿児島空港から桜町バスターミナル行きのバス便は、新幹線開通に伴い廃止になりました。

合津マリンアクセス



熊本駅



九州産交バス



# 施設利用案内

## 利用申請

合津マリンステーションに、電話、FAXあるいは電子メールで直接問い合わせして下さい。所員に支障がない場合は、平日以外の利用についても便宜をはかることにしています。利用が確定した際には、「施設利用申請書」「使用目的書」に必要事項をご記入頂き、利用日の6カ月～2週間前までに「施設利用専用E-mail: [extrtuse-ams@kmm.kumamoto-u.ac.jp](mailto:extrtuse-ams@kmm.kumamoto-u.ac.jp) (熊本大学教育 研究支援部 自然科学系事務課経理担当)」にお申し込み下さい(事前の利用相談なしに利用申請書を送付されても受け付けません)。また 船舶を利用希望の方は「乗船誓約書」も併せて提出下さい(押印は船舶利用前に済ませてください)。

## 施設利用料

### 宿泊室

1～2号室 …… 2人部屋 1泊1室 4,000円

3～9号室 …… 6人部屋 1泊1室 4,000円

宿泊には、シーツクリーニング代(1人1,000円)が別途必要です。

### 実習室と研究室

第1実習室(1階) … 1日 2,500円

第2実習室(2階) … 1日 全室 3,400円 半室 1,700円

外来者研究室1\* … 1日 1,500円 (2日目以降 800円)

外来者研究室2\* … 1日 1,500円 (2日目以降 800円)

\* 宿泊を有りの場合は1日4,000円(2日目以降 800円)  
+ シーツクリーニング代(1人1,000円)

### 船舶

ドルフィンSC(9.7t, 423 kW(575馬力), 最大30名)

…1日48,000円(0.5日24,000円)

しらぬひ(1.5 t, 36 kW(50馬力), 定員6名)

…1日14,000円(0.5日7,000円)

## 施設利用案内



詳しくは、合津マリンステーションの施設利用案内をご覧ください。

合津マリンステーション

〒861-6102 熊本県上天草市松島町合津 6061

Tel 0969-56-0277 Fax 0969-56-3740

E-mail: [staff-ams@kmm.kumamoto-u.ac.jp](mailto:staff-ams@kmm.kumamoto-u.ac.jp)

教育研究支援部

自然科学系事務課経理担当

〒860-8555 熊本市中央区黒髪 2丁目 39番 1号

国立大学法人 熊本大学

Tel 096-342-3521 Fax 096-342-3320

E-mail: [szk-keiri@jimu.kumamoto-u.ac.jp](mailto:szk-keiri@jimu.kumamoto-u.ac.jp)